

(公表用)

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」(平成25年度採択)

事後評価結果

番号	研究名	研究代表者	評価
25-1	広域道路ネットワークの耐災害信頼性から観たリンクの脆弱度及び改良優先度の実用的評価手法の開発と適用性評価	政策研究大学院大学 教授 家田 仁	A
<p>&lt;研究の概要&gt; ※成果報告レポートより引用</p> <p>東日本大震災を踏まえて提案された「道路の防災機能評価手法(暫定案)」の実用性向上を念頭に、実務者の感覚と合致した改善評価手法の開発および適用可能性の検証を行った。具体的には、(1)実務者との意見交換から抽出した実務ニーズを踏まえて、暫定手法をベースに地域の実情を踏まえた新たな評価手法を構築し、(2)新たな評価手法の実務への適用可能性の検証ならびに評価手法の改訂に向けた試みに関する研究を行った。</p> <p>&lt;事後評価結果&gt;</p> <p>全国の研究者、本省、地方整備局関係者を巻き込んで研究を実施した点は高く評価できる。道路の耐災害信頼性評価について、暫定手法の改善のための理論・システム構築を行っており、道路政策の改善に直接的に寄与するものと考えられることから、当初の目的に適った十分な研究成果が得られたものと評価する。</p> <p>&lt;参考意見&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 全国各地域の道路行政担当者及び交通研究者を巻き込んで研究が遂行されたこと、そして成果がマニュアル化され、提案手法が道路行政の実務において本格的に運用されていることは、高く評価される。</li><li>2. 政策評価に関する考え方と実務を属人的にしないために、ファインチューニング、例えば拠点ペアの選択に根拠を残すシステムとするなど、より適用性の高い行政マニュアルに向けて、今後も引き続き検討いただきたい。</li><li>3. 理論的整合性と実務的経験整合性を両立させた方法論についても大きな成果なので、その点での成果も今後、学会に学術論文として発表する等して整理していただきたい。</li></ol>			

※本事後評価は、新道路技術会議の各委員が評価を行い、第29回新道路技術会議において審議したものである。